

富山大学から地域のみなさまへ

Tom⁴⁶

特集

とやまを究める

富山大学が取り組む富山の文化の研究

富山大学広報誌
| トムズプレス |

Tom's Press
Autumn
2018
Vol.46

都市デザイン学部

秋田 麻衣

手で考えて身体でつくるーその1 椅子の実測から制作まで

芸術文化学部建築デザインコースでは、図面や模型によるデザインをするだけでなく、実寸大でモノや空間を制作する授業を意識的に行っています。

今回で紹介するのはそのひとつ、世界の名作椅子を実測して1/5の大きさの図面や模型をつくり、次に学生ひとりひとりが自分の身体の大きさや座り心地を考えて、厚み15mmで約90cm角の合板だけを用いて、実物の椅子を制作するというものです。

実際にモノをつくるためには、素材の厚みや接合方法、制作する順番、加工技術の限界など、様々な問題を解決しなければいけません。素材の質感やスケール感を体感しながら、モノや空間をつくる喜びを学んでほしいと願っています。

(芸術文化学部/准教授 萩野紀一郎)

TOM'S
GALLERY

- 01 名作椅子を実測し、図面を作成して模型も制作
- 02 学生ひとりひとりがデザインした椅子の制作風景
- 03 身体と椅子の関係をチェック
- 04 作品を並べて展示し、実際に座っての講評



富山大学広報誌 トムズプレス

発行日：平成30年10月17日

発行：国立大学法人 富山大学

編集：トムズプレス専門部会

- 菊池 万里 大学院理工学研究部(理学) 教授
- 赤尾 千波 人文学部 教授
- 南田 寿則 大学院医学薬学研究部(薬学) 准教授
- 内藤 裕孝 芸術文化学部 講師
- 小泉 桂一 和漢医薬学総合研究所 准教授
- 河野 哲也 大学院理工学研究部(都市デザイン学) 准教授

問合せ先：富山大学 総務部 総務 広報課
〒930-8555 富山市五福3190
TEL 076-445-6028
FAX 076-445-6063
E-mail kouhou@u-toyama.ac.jp

本誌は、富山大学構内などで無料配布しています。郵送を希望される方は、住所・氏名を明記の上、メール又は、はがきでお申し込みください。※お知らせいただいた個人情報は、本誌の発送以外には使用いたしません。

本誌は、年4回、3ヶ月毎に発行します。ご意見、ご要望を是非お聞かせください。

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。環境に配慮した紙と植物油インクを使用しています。



リサイクル適性(A)

無断転載はご遠慮ください。
印刷・製本 株式会社チューエツ

ISSN 1880-6678



Tom's Pressはインターネットでもご覧いただけます。バックナンバーはこちらから!



富山大学
きょうとくとな大学やちゃ〜

Cover Story

あきた まい
“秋田 麻衣” 都市デザイン学部 1年・石川県出身

富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科で学ぶ秋田麻衣さん。幼少の頃から(表紙写真下)人を喜ばせたいという気持ちがあった。実家が建つ現場を子どもながらに見て、人を守るものを作りたいという気持ちになったそう。体を動かすことが好きだという彼女は、建物の設計よりも、実際に建物が建つ現場で仕事をすることに興味を持った。高低差4000m(立山から富山湾深海まで)という富山県の地形は世界的にも珍しく、そのような環境(現場)で学べる富山大学に強い魅力を感じ進学を決めた。現場に近い富山大学ではたくさんのプロジェクトやフィールドワークが行われている。「今も様々なプロジェクトに参加しています!」と話す声から、富山大学に来てよかったと実感している充実感が伝わってきた。

表紙・インタビュー担当/奥川夏音 渡辺陽子
撮影/奥川夏音(すべて芸術文化学部生)
表紙監修/芸術文化学部 准教授 渡邊雅志



茅の刈り取り方の説明を受ける



茅場の中刈り(6月～9月)

茅場での刈り取り(10月下旬ごろ)



写真① 庄川の対岸から撮った菅沼集落

とやまを**究**める

～富山大学が取り組む富山の文化の研究～

「富山」をテーマにした様々な研究に取り組む富山大学。その切り口は、文化や祭り、方言など様々です。今回は、各分野のユニークな研究を紹介しながら、意外な富山、知らなかった富山を学ぶ特集です。

五箇山合掌造り集落(相倉合掌造り集落)

01 五箇山 合掌造り

かぼちゃを食べると
世界遺産が守られる!?

奥准教授の専門は、「風景計画学」。
五箇山合掌造り集落を風景としてとらえると、
今まで気づかなかったものが見えてきます。



芸術文化学部
奥 敬一 准教授
OKU, Hirokazu

合掌集落の特徴を 風景から読み取る

五箇山には相倉と菅沼、二つの世界遺産合掌集落があります。写真①を見て下さい。あまり見ない角度からの風景だと思えます。これは、庄川の対岸から撮った菅沼集落です。こうしてみると庄川の流れに突き出したようなところに住んでいるんだなということがわかりますね。この村の周りに何があるか。この環境で暮らすためにどんな工夫がされているか。この風景から特徴を読み取り、守るべきもの、変化するものを見極めながら、地域の人が住みやすい村づくりに応用していくのが、「風景計画学」の役目になります。

茅葺き屋根を守る 「茅場」の存在

合掌造りの特徴である茅葺き屋根には、ススキの仲間であるカリヤスという植物が使われています。あれだけ大きな屋根です。茅を使う量も半端じゃありません。このため、「茅場(かやば)」と呼ばれる山の急斜面でカリヤスを育成し、毎年刈り取りをしながら屋根を維持してきました。この作業を繰り返してきたのが、合掌造り集落の営みです。

茅の刈り取りは10月頃ですが、6月から9月には中刈りといって茅にからみつく草を取り除く作業をしないとけません。夏場です。茅の大変な作業です。このため、地元の合掌の森再生協議会が主



雪持林のフナ



春、茅場で見られるカタクリ

屋根で肥料を作り 作物を育てる!?

さて、茅場で刈り取ったカリヤスは屋根の葺き替えに使われます。では、屋根で使われていた古い茅はどうなるのか? その答えは、もちろん有効活用です。五箇山では、葺き替えた後の茅を古くから田畑の肥料として使ってきました。ある専門家は、「雨露をしのぐのも大事だが、合掌造りの屋根はそこまで必要ないくらい厚みがある。それは屋根の上で肥料を作っているからだ」と指摘したことがあります。古い茅は畑に敷くとクッションになって実が傷がつきにくく、肥料や雑草を抑える役割としても有用ということです。合掌の森再生協議会では、古くから地元で栽培されてきた伝統野菜「五箇山ぼべら」に着目。栽培量の拡大とプ



五箇山ぼべら(撮影:田原美幸)

合掌造りの維持に欠かせない茅場保全の重要性。そして屋根に使われていた古い茅を無駄にしない暮らしの知恵。これらを認識し、支援するためのきっかけになるのが、五箇山ぼべらというわけです。五箇山に限らず、日本の風景を守るという視点に立つと、農村部の場合はその地のものを食べるというのは非常に大事なことです。心とむ田園風景も、私たちがしっかりお米を食べているからこ

ランド化を目指す活動に取り組んでいます。五箇山ぼべらとは、ラグビーボールのような形をしたかぼちゃで、普通に食べる以外に、コロッケやクッキーなどの加工品としても販売されています。こうした製品の流通によって、民家維持のサイクルと農的な営みの循環がリンクする。その価値を社会に伝えることができれば、世界遺産としての価値をより高めていくことにつながります。



茅葺き屋根の葺き替え作業

で見られる風景なのです。日本の原風景といわれる合掌造り集落が、かぼちゃと密接につながっている。実に興味深い話だと思います。観光地としての五箇山も魅力的ですが、時には視点を変えて風景の中に息づく五箇山の自然環境や暮らしの営みにも思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

奥准教授に聞く!

合掌造り集落の楽しみ方



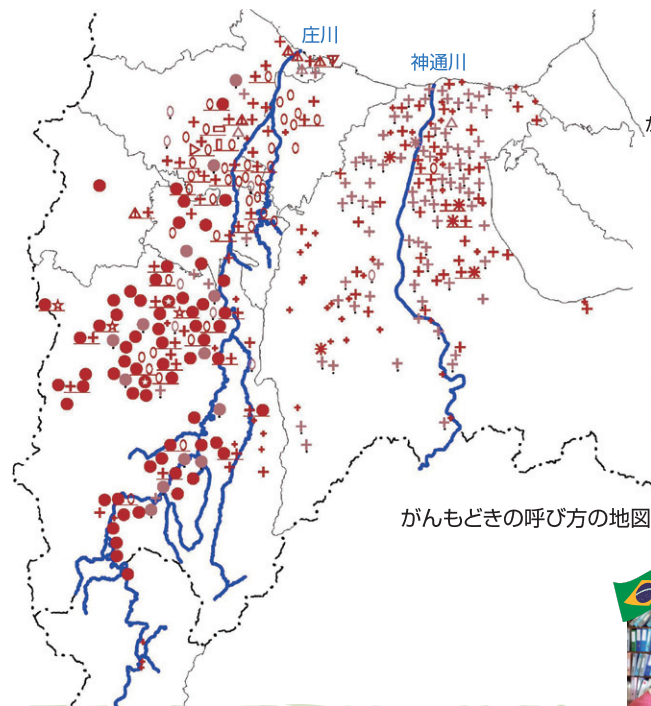
合掌造り(岩瀬家)内部

別の地域で茅葺き民家再生のお手伝いをしたこともあって、私が個人的に気になるのは屋根の構造です。雪が滑りやすいような急勾配。さらに木材の結束には、ネソとよばれるマンサクの枝をねじったものが使われているなど、屋根裏を見るだけでも、スゴイ技術を実感することができます。



また、五箇山はかつて「鳥も通わぬ」といわれた秘境でした。罪人の流刑地でもあったので隔絶されたイメージが強くあると思います。しかし、合掌造りの屋内では秘密裡に火薬の原料である塩硝を作り、加賀藩に納めていました。そのため最大規模の合掌造りである岩瀬家には、巡視にやってくる加賀藩の役人を泊める役割もありました。そんな関係もぜひ知ってほしいですね。

合掌造りの集落をただ「見る」だけで通り過ぎるのは、もったいないです。この風景や環境の中で人々がどんな暮らしを営んできたか。風景学の視点で、合掌造り集落を堪能してみると、五箇山の様々な食べ物もいっそうおいしく食べられると思います。



がんとどき(庄川・神通川)

●	マルヤマ
○	マルアゲ
△	ヒローズ
▽	ヒロジ
◇	ヘロース
☆	カヤクイリマルヤマ
★	カヤク
▲	アゲ
□	アブラアゲ
+	ガンモ
✱	ガンモドーフ
✳	ガンモドキ
N	NR

がんとどきの呼び方の地図



ブラジル コロニアピニャールでの、富山県出身の広瀬さんご夫婦への聞き取り調査の様子



ボリビアのサンファンで、富山県人会の澤元さんと

精進料理でよく使われる素材ですから、宗教との関わりが色濃く反映されています。特に、県西部は浄土真宗との関わりが他と比べて深いので、報恩講等で大きな「まるやま」を食べる習慣があります。県西部には大きな寺院も多く、それらは京都の大きな寺の出先機関でもあったため、京の食文化や宗教を伝える役割を果たしていたのではないかと考えられます。

一方、県東部は京都や大阪との関わりもそれほど深くなかったため、江戸風「がんとどき」と言ったのだらうと思われる。このように、食べ物の呼び名を調べていくと、食文化だけでなく、仏事や祭礼などと密接に関わり、その地域に根付いた文化などをよく反映していることがわかります。

方言研究の基本的なフィールドワーク。地域に住む高齢者を訪ね、話を聞きます。暮らし方や食べ物などの生活文化を見て、いろいろなことを感じながら話をするようにしています。

富山県は県東・県西で言葉も文化もそれぞれに特徴がありますが、最近ではもっと細分化した文化や人のつながりがあるように感じています。地域で使われる言葉にはバラつきがあり、各々のこだわりも強い。祭りや文化について「日本一だ」と誇るケースもあり、それぞれの地域に根ざした文化にプライドを持っていることを強く感じます。近年では国内だけでなく、海外にも調査に行っています。例えば、ブラジルは富山県の移住者がとても多い国で、現在の日系社会は3世の時代になってきています。戦前はもちろん、戦後間もない時期にも富山県からかなりの方が海を渡りました。このため、2世と話をすると語尾に「ちゃ」を付けた「NO」ではなく「なーん」と話されるなど、富山弁が随所に使われていて、距離感が一気に縮まりました。

方言は「1年で1キロ進む」といいますが、海を隔てた異国の地でしつかりと富山弁が生きている。感慨深いものがあります。

面白くていいさる(驚く)
「富山県方言番付」

「富山県方言番付」は、2006年に富山商工会議所が勧進元となつて作成されました。地元の方言研究家、葛島良二さんが編集した方言辞典をもとに選定した語を、人文学部の日本語学研究室の学生による調査に基づいて点数化し、葛島さんと協議しながら番付としてまとめたものです。刊行から10年以上が経った今日、そろそろ研究室に蓄積されたこれまでの研究成果をとりまとめて、「富山県方言辞典」の作成を考えているところです。富山大学人文学部の方言研究は国内有数の伝統とレベルにあると自負しているので、研究室の集大成となるような方言辞典を残したいと思っています。

02 富山の方言

上方と江戸の言葉が融合している富山の方言

方言学の研究とは？ 言葉の研究とは？

富山弁には特徴がある？

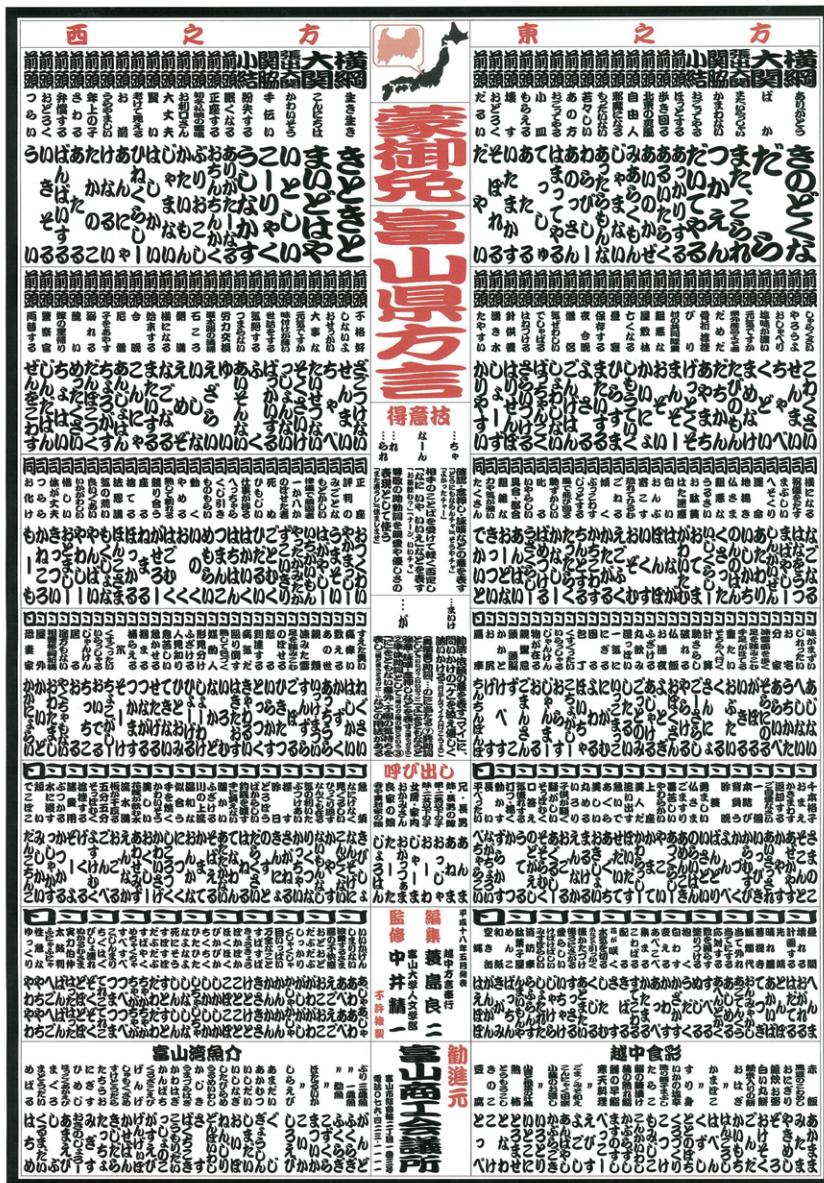
富山の方言について、中井精一教授にお話をうかがいました。

東は「しよっばい」西は「からい」
富山県中央部は「しよっからい」

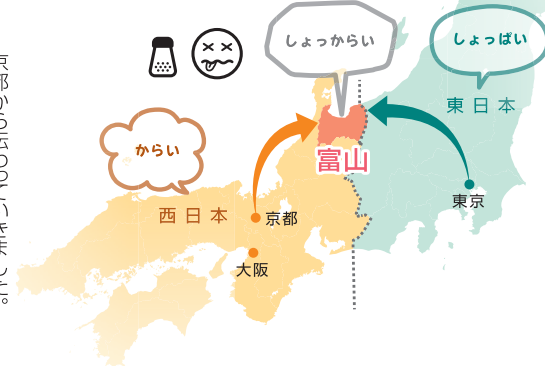
「方言学」とは、日本各地にある方言を一つの体系を持った日本語の地域バリエーション

シブシブと入ってくるもの。これによって地域の歴史や文化、習慣や民俗もわかってきます。

日本列島は南北に長く、自然環境も変化に富んでいます。言葉や文化は、古くは



富山県方言番付



京都から伝わっていきました。富山県は西日本の東端であり、京都や大阪を中心とした上方文化が伝わっている一方、県東部には江戸から伝播した文化も入ってきています。つまり、上方文化と江戸文化が融合している地域といえるでしょう。

例えば、塩味が強い料理を口にした時、皆さんは何と言いますか？ 富山県の東、新潟県の方にいくと「しよっばい」。富山県の西、関西の方では「からい」といっています。そして富山市を中心と



富山県西部砺波地方の郷土料理

西は「まるやま」
東は「がんとどき」

皆さんご存知の「がんとどき」。これを何というか調べてみました。県西部の庄川流域では「まるやま」「まるあけ」。河口近くに行くといろいろ「ひろろろろ」といわれます。これが県東部の神通川流域では「がんとどき」となります。



人文学部
中井 精一 教授
NAKAI, Seichi

Column * コラム



富山県は獅子舞伝承数、日本一！

富山県の町の祭りと言える曳山祭に対して、村落部を中心に県内津々浦々で継承されているのが獅子舞です。伝承数1000以上とされ、全国一とも言われます。形態も地域ごとに異なり(特に県東部と県西部では大きく異なっている)、研究対象としても興味深いものがあります。曳山祭など町の祭りは5月から9月の時期にほぼ集中するのに対して、獅子舞はその前後の4月と10月にもっとも多く行われます。

歴史的にみた場合、今日まで存続する曳山祭は17、18世紀に始まり、19世紀に発展した大きな流れがあるのに対し、獅子舞はそれより遅く、19世紀に始められたものが中心です。そして20世紀、とりわけ村落部で人口減少が顕著となる半世紀前の高度経済成長期以降、数を大きく減らしてきています。社会変化と運動したこの流れを止めることは容易でなく、今後も担い手の不足から休止や廃止となるものが続出することが強く懸念されます。

それでも獅子舞が地域の人たちに深く愛されていること自体何ら変わっているわけではありません。村落部には半世紀ほど前までもっとさまざまな祭りが行われていましたが、そのほとんどがすでに消失しています。そうしたなかにあって獅子舞は多くが今日まで継承されてきました。地域のかけがえのない文化としてより多くの人たちに関心を持ってもらえればと思います。



阿南透・藤本武編『富山の祭り』(桂書房)
富山の祭りの魅力を21人の研究者が解説。



となみ夜高まつり(砺波市) 6月第2金・土曜日
「ヨイヤサー、ヨイヤサー」の掛け声とともに、町を練り回る高さ6mを超える見事な夜高行燈。大行燈がぶつかり合う「突合せ」が見もの。

つくりもんまつり(高岡市福岡町)
9月23日～24日
野菜や草花を利用し、見立て細工を飾る祭りです。その年の話題や行事をテーマに素朴でユニークな作品が見もの。
写真提供:富山大学 橋爪隆准教授



たてもん祭り(魚津市)
8月第1金・土曜日
高さ約16mもある大柱に、90余りの提灯を三角形につるし下げ、魚津海岸沿いから諏訪神社境内へ曳き回します。



城端曳山祭(南砺市)
5月4日～5日
300年の伝統を誇る優雅な祭り。精緻な彫りと塗りが施され、御神像を乗せた6台の山車が町中を練り歩きます。



高岡御車山祭(高岡市)
5月1日
第二代加賀藩主、前田利長が1609年に高岡の町を開いた際に始められた祭りで、7基の華やかな御車山が高岡の旧市街を巡行します。写真提供:高岡市

03 富山の祭り

地域の人に愛され、
地域の人が主役の富山の祭り
民俗学者の阿南透氏と『富山の祭り』(桂書房)を編集した藤本武教授(文化人類学)に、富山の祭りの特徴や魅力についてお話しいただきました。



人文学部
藤本 武 教授
FUJIMOTO, Takeshi

多彩な富山の祭り

多くの方の協力を得て、今春富山の祭りに関する本を出すことができました。ただ、私は富山の祭りを長く研究してきた者ではありません。そこで、この場では、一ファンとしてお話ししたいと思います。

絢爛豪華な高岡御車山祭、哀愁に満ちた旋律のおわら風の盆、ユニークなつくりもんまつりなど、富山県には魅力的な祭りがたくさんあります。平成28年には3つの祭り(高岡御車山祭、城端曳山祭、魚津たてもん祭り)がユネスコ無形文化遺産「山鉦屋台行事」に選ばれました。

山鉦屋台行事といっても一般にはわかりにくいかもしれません。山車(だし)の出る祭りと思ってもらえばいいでしょう。全国には1000以上あると言われます。富山県では山車のことを曳山(ひきやま)あるいはたんにヤマと多くいいますが、そのお祭り(曳山祭)がさかんで、富山県を代表する祭りと言っているでしょう。いずれも安寧や繁栄を願うなど深い信仰に支えられ、江戸時代より行われています。また曳山とは呼ばないものの、毎年新たに作った巨大な行燈(夜高行燈)を台に載せて曳きまわす祭り(夜高祭)などもあり、広義の山車の登場する祭りは多彩です。



伏木曳山祭「けんか山」(高岡市)
5月14日～15日
【写真上】花山車 【写真下】夜になると提灯山車に姿を変え、「かつちゃ」と呼ばれる目もくらむような激しいぶつかり合いを繰り広げます。
写真提供:高岡市

祭りを通して地域を「知る」

これまで富山県の祭りを代表する曳山祭を見てきましたが、いずれも地元の人たちに愛され、地域の誇りとされている祭りばかりです。逆に言えば、地元で愛されているからこそ、今日個性豊かな祭りとして

すことは地元の方にとってもうれしいことなので、興味深い話を聞ける私たちにも楽しい時間になります。

祭りをする人たちと直接コミュニケーションをとることは、曳山の造形美や勇壮なけんか祭りを「見る」だけでは得られない、祭りの地域や歴史を「知る」新たな楽しみともえます。富山の祭りは過度に観光化されておらず、祭りをする人とする人の距離がとてに近いので、話しかけたりすることは容易にできます。一度試みてみることをおすすめします。

とはいえ、何よりもまず自ら足を運んでみましょう。すべてはそこからです。

曳山同士が「けんか」をする
これも富山の曳山祭の特徴の一つ

実は曳山祭といってもその中身はさまざまです。まず、金工や漆工のきらびやかな装飾が細部に至るまで施された豪華な山車が優雅に町を練り歩くタイプの祭りで、さながら動く「美術工芸品」の趣のものがありません。江戸時代に確立された形を今日まで忠実に引き継ぐ由緒ある祭りといえるでしょう。県内の曳山祭でもっとも歴史のある高岡市の高岡御車山祭が典拠例ですが、南砺市の城端曳山祭や富山市の八尾曳山祭などにもそうした特徴がみられます。

もうひとつ忘れてならないのが、砺波市の出町子供歌舞伎曳山祭です。この祭りでは、曳山の上の舞台で子どもたちが歌舞伎を演じます。かつては、県内および全国で多数行われていましたが、現在全国で数か所しか見られない貴重な曳山祭です。

他にもある！
学びの場所

北陸4大学連携 まちなかセミナー

2003年度より、北陸地区の国立大学が連携して、富山・石川・福井の各県にてまちなかセミナーを開催しております。

今年度の富山会場のテーマは「都市をデザインする～地方創生のための安全・安心で住みよく豊かなまちづくり～」です。

受講料無料、事前申込不要ですので、お気軽にご来場ください。

日時 10月27日(土) 13:30～16:30

会場 富山駅前CICビル3階学習室

サテライト講座(年間全9回)

多彩な専門分野を有する富山大学の教員陣が、日ごろの研究成果を皆様に向けてわかりやすくお話しします。

受講料無料、事前申込不要ですので、お気軽にご来場ください。

時間 14:00～15:30

定員 各講座とも80名程度

会場 富山駅前CICビル3階学習室

第5回 10月20日(土)

都道府県の所得格差と
「地方消滅」論
—富山県の現状は?—

経済学部 教授 小柳津 英知

第6回 12月15日(土)

くすりの適切な使用方法とは?
～最低でも知っておきたいことから
最新の研究の話題まで～

大学院医学薬学研究部(薬学)教授 藤 秀人



VOICE 公開講座 受講者の声

未経験でも失敗しても、大丈夫。

高野 史子さん

受講講座【楽しみながら伝える日本の文化・和菓子】

和菓子の作り方を学ぶ機会は少なく、家庭でも作れる!と知って興味をもちました。職人さんの手つき、手際の良さを生で見ながら学べます。本には載っていないこと(作業の加減や一手間)も詳しく教えてもらえます。



一挙に知識が得られる貴重な機会。

高嶋 敏秀さん

受講講座【これからの持続可能な都市のデザイン】

テキストの行間に隠れている知識、現場の最新情報を直接聞けるのが、公開講座の良い点。防災関係の仕事に活かせると参加を決めました。たとえ動いている業種が違って、捉え方次第で自分の仕事に活かすことができます。



会話力を伸ばす授業内容です。

河原 彩理奈さん(富山大学学生)

受講講座【中国語さなる一歩
(会話中心の中国語 中級・上級クラス)】

中国に支社のある企業に就職したい人、特に経済学部と工学部の学生にはお勧めしたいです。研究活動においても中国語の論文を読むなど、中国語がわかれば役に立つ機会が多くあります。幅広い年代の方々と一緒に楽しく学びましょう。



オトナの学び場。

公開講座とオープン・クラス

「学びたい」という好奇心。「自分を高めたい」という向上心。

富山大学では、小学生からシニアに至るまで、

幅広い年齢層を対象にした学びの機会を提供しています。



サテライト講座「持続発展可能な社会を目指す「ゴミ」からの航空機ジェット燃料製造プラント」



公開講座「楽しい薬用植物の育て方・殖やし方」



公開講座「楽しみながら伝える日本の文化・和菓子」



公開講座「木彫レリーフ(浮彫)制作」



公開講座「親子で楽しむプログラミング kids編」

公開講座の申込期間は、公開講座募集案内の公表から各講座の開講の10日前までです。

来年度前期の公開講座の案内は、3月上旬～中旬に、生涯学習部門ウェブサイト、県内各図書館・美術館等へのポスターの掲示、過去3年の受講者へのダイレクトメール、新聞折込等でお知らせいたします。

なお、来年度前期のオープン・クラスの申込期間は、3月中旬～下旬です。

「富山大学 公開講座」で 検索!

申込み・お問合せ

受講申し込み・各種問い合わせは、各講座が開講されるキャンパスごとで行って下さい。受付時間は土・日・祝日を除く8:30～17:15です。

<五福キャンパス受講者窓口>

富山大学 研究振興部 社会貢献課
TEL.076-445-6956 FAX.076-445-6033

<高岡キャンパス受講者窓口>

富山大学 芸術文化学部総務課 総務・研究協力チーム
TEL.0766-25-9138 FAX.0766-25-9104

<杉谷キャンパス受講者窓口>

富山大学 医薬系事務部 研究協力課
TEL. 076-434-7144 FAX.076-434-4656

大学の「知」を開放。

「公開講座」

生涯学習部門では、幅広い年代の一般市民を対象に、教養、語学、体験の3つのジャンルからなる多様なテーマの講座を種々開講しています。

●講師より(専門分野・心理学)

これまで私の担当した公開講座では、心理学や音楽療法など、心の働きについて考えるテーマを取り上げてきました。講義では、実感を伴った理解ができるように、スライドや動画などの視聴覚資料を積極的に利用して、リアルな情報を提供することを心掛けてきました。受講者は一般市民の方30人から40人ほど。年齢層は20代から70代くらい。男女比は概ね一対二で、女性が多いです。

受講者の皆さんは学習意欲が大変旺盛で核心をつきの確かな質問や問題指摘をなさる方もあり、講師としても、もつと勉強せねばと刺激を受けています。今年度後期の講座では、音楽療法の研究成果を学びな

から、CDで音楽を聴き、ときには皆で歌うなどして、音楽による健康増進法などを考えます。

「オープン・クラス」

生涯学習部門では、高校生からシニアまで、幅広い年齢層に対しアカデミズムの世界を探索してもらおうと、「オープン・クラス(公開授業)」を実施しています。

オープン・クラスは、学部・大学院の正規の授業のうち約800科目を公開し、一般市民の皆さまが気軽に受講できる取り組みです。これまでに多くの皆さまが受講しており、「本気で学びたいと思った時に、このような機会に出会うことが出来て、恵まれています」という受講者からの声をいただいています。

いくつになっても「学びたい」と思ったときが始めるときです。オープン・クラスお待ちしています。

薬学部

薬学部公式イメージキャラクター誕生!

7月8日、薬学部に公式イメージキャラクターが誕生しました。キャラクターは薬学部生の姉弟をイメージした「薬師 愛」「薬師 創」の二人です。名字の「薬師」は富山県のシンボル、立山連峰の薬師岳に由来しています。姉の「愛(あい)」には患者に愛情を持って接するとの思いを込め、弟の「創(そう)」には新しい薬を創造していくとの思いが込められています。酒井秀紀薬学部長が原案を考え、県内在住のデザイナー松岡ひとみさんが描きました。



薬師 愛 薬師 創 (右)ウッドキーホルダー

研究推進機構

Toyama Academic GALA 2018を開催

研究推進機構は、9月14日、富山大学の先端研究成果並びに研究シーズを紹介するToyama Academic GALA 2018を開催しました。午前の部では、本学の重点領域の研究紹介及び、2017年度学長裁量経費の採択者による成果発表が行われ、午後の部では、本学の研究者・学生によるショートプレゼンテーション、ポスター発表及び筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構 機構長 柳沢正史氏による特別講演が行われました。



特別講演を行う柳沢正史機構長

ポスター発表会

附属病院

がんゲノム医療 市民公開講座を開催

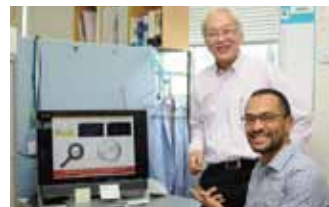
9月22日に富山大附属病院がんゲノム医療市民公開講座を開催しました。富山県で唯一の「がんゲノム医療連携病院」である本院では、9月から「がんゲノム医療外来」を開設しました。公開講座では、国立研究開発法人国立がん研究センターの中釜齊理事長・総長の特別講演、本院の医師による講演、参加者からの質問に答えるパネルディスカッションから、「がんゲノム医療」について学んで頂き、255名が参加しました。



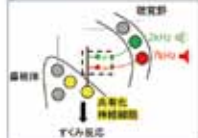
医学部

井ノ口馨教授らのグループが複数の記憶を混同せず保存できる仕組みを解明

大学院医学薬学研究部(医学)生化学講座の井ノ口馨教授らは、複数の経験を関連づけて記憶する一方で、個々の経験を混同することなく記憶する仕組みは、脳の神経細胞の接合部「シナプス」を使い分けることによって担われていることを明らかにしました。記憶の連想や混同に関わる心的外傷後ストレス障害(PTSD)の治療や認知症の予防に役立つと期待されます。この研究成果は、6月15日に米科学誌「Science」の電子版に掲載されました。



記憶のアイデンティティを保つ
二つの記憶を持つエンGRAM細胞(共有化エンGRAM細胞)上に存在する異なるシナプスが異なる記憶を担っている



芸術文化学部

「芸術文化学部 卒業制作展 セレクション」を開催

8月9日から9月4日まで、富山県美術館TADギャラリーにて「富山大学 芸術文化学部 卒業制作展 セレクション」を開催いたしました。本展覧会では、芸術文化学部及び大学院の学生の、平面、立体、メディアアート、工芸、デザイン、建築など様々な分野の秀作全23点を展示しました。展覧会には、全国から26,000名ほどの方が来場し、若さ溢れる作品の数々を楽しんで鑑賞していただきました。



人間発達科学部

学びのアシスト中間報告会を実施

人間発達科学部では、教師を目指す1年生が「学びのアシスト」に参加します。「学びのアシスト」とは、富山県内の公立小学校に週1日、約7ヶ月間通いながら、学級担任の補助を通して教師の仕事について学ぶ活動です。8月下旬には、中間報告会が行われました。学生たちは、授業中の先生方の視野の広さや子どもたちへの適切な声かけ等、配置校の先生方や子どもたちから学んだことについて語り合い、発表しました。



理学部

KAGRA face to face meetingを開催

8月24日から26日にかけて、黒田講堂にて第20回KAGRA face to face meetingを開催しました。この会議では岐阜県飛騨市神岡町にて建設中で来年度から観測を開始する予定の大型低温重力波望遠鏡KAGRA計画の進捗状況について報告、議論がなされました。会議内では山元一広准教授からKAGRAに使用するサファイアミラーの最終工程を行っている理学部内の施設の紹介等もあり、富山大学の学部生、院生も含めた国内外からの120名程の参加者により活発な意見交換がありました。



都市デザイン学部

都市デザイン学部開設記念式典・記念講演会を举行

7月25日、富山国際会議場にて都市デザイン学部の開設記念式典及び記念講演会を举行し、関係者約400人が出席しました。記念式典では、義本博司文部科学省高等教育局長、石井隆一富山県知事からの祝辞が代読された後、渡邊了都市デザイン学部長から学部の概要について説明がありました。

引き続き開催された記念講演会では、清水建設株式会社フロンティア開発室海洋開発部上席エンジニアの竹内真幸氏の講演が行われました。



(右)竹内真幸氏

人文学部

フランスのオルレアン大学生が生け花体験

7月5日、フランスのオルレアン大学短期研修学生8名が「日本語・日本文化理解」プログラムの一環で、生け花体験を行いました。本プログラムは、大学間学術交流協定校であるオルレアン大学の学生8名を人文学部の特別聴講学生として受け入れ、6月30日～7月14日まで、日本語と日本文化を学ぶ研修を行うものです。生け花体験では、人文学部中島教授の指導のもと、学生たちは日本の風情を感じながら作品を作り上げていました。



経済学部

日本テレワーク学会関西支部寄附講義「情報化社会と働き方革命」を開講

経済学部では、8月27日～8月30日まで日本テレワーク学会関西支部による寄附講義「経営学特殊講義(情報化社会と働き方革命)」を開講しました。講師は同学会顧問・理事等が務め、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方である「テレワーク」を題材として実際の事例と理論を講義しました。学生たちは、テレワークを都市部の視点ではなく地方の視点で考察し、情報化と人材の多様化が進む現代社会での働き方について理解を深めました。

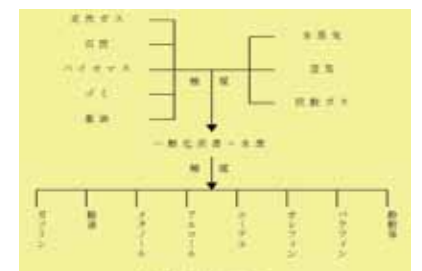


講師の古賀広志氏(写真左)と下崎千代子氏(写真右)

工学部

椿範立教授らのグループがコバルトの使用量を大幅に減らせる方法を開発

大学院理工学研究部(工学)椿範立教授らは、一酸化炭素と水素の混合ガスから軽油などを合成する化学反応「フィッシャー・トروبシュ(FT)合成」で、従来の触媒化学理論を覆し、触媒となる希少金属のコバルトの使用量を大幅に減らせる方法を開発しました。これにより、軽油などの生産に用いるコバルトの量を大幅に減らすことができます。この研究成果は、8月14日の英科学誌「ネイチャー・コミュニケーションズ」電子版に掲載されました。



C1化学の流れ

アメリカ建国に深く関わった フィラデルフィア図書館会社

研究対象は、アメリカの植民地時代から独立革命期に活躍していた知識人。中でもベンジャミン・フランクリンは、政治、外交、著述、物理学、気象学、出版業など様々な分野で活躍している。

竹腰准教授は、「図書館設立の父」としてのフランクリンに着目。フィラデルフィア図書館会社設立の経緯、図書選定の背景、蔵書数や種類などの調査を通して、独立革命期のアメリカの研究に取り組む。

図書館設立の原点は、野心に満ちた仲間と結成した「ジャントール」。家が貧乏で十分な教育も受けられなかった若者たちにとって、「学校」の役割を果たすグループだった。



フィラデルフィア図書館会社



【写真上】フランクリン像(フランクリン協会)
【写真下】ベンジャミン・フランクリン博物館

そんな彼らが選定した図書は歴史文学・科学分野が6割を占め、神学分野は全くない。当時、ハーバード大学やイエール大学の図書は神学が主で、図書館会社との差は歴然だ。中でも科学分野の図書が最も多く、フランクリンらの科学に対する強い関心がうかがえる。さらに、ラテン語やギリシア語などの古典ではなく、ほとんどが英語で書かれた本だったことも注目すべき特徴だ。

「当時、学士の資格を取得するためには古典言語が必須でした。しかし、フランクリンは「植民地の大学で学ぶ金持ちの子弟たちは、知ったようなふりをしているだけで、実際に役立つ知識をほとんど身につけていない」と辛辣に批判しています。向学心はあっても学ぶ機会に恵まれなかった彼にとって、旧世界の教育やそこで学ぶエリート層への反発はかなり大きかったと想像されます。このような権力や権威に対する反発こそが、フランクリンの抱いていた「反知性主義」で、竹腰准教授は解説する。

トランプ大統領誕生に通じる フランクリンの反知性主義

大学院の頃、よく読んでいたのはアメリカ文学作品。元々、丹念に本を読み資料を調べることも好きだったので研究も楽しかったと当時を振り返る。

「かつて、雷は神様の怒りだと思われていて、落雷に遭わないよう教会で鐘を鳴らし、それで命を落とす人もいた。フランクリンはそれを科学的事象であると

研究活動を通して得たものを 自分の今後にどう活かすか。

理学部を選んだのは、化学を学びたい、教師になりたいという二つの理由からです。研究室では「光によって再生できる二酸化炭素多電子還元錯体触媒の開発」に取り組みました。現代社会が抱えているエネルギー問題に活用するための手段として、二酸化炭素の削減を目指した化合物の開発です。柘植教授、大津准教授という素晴らしい先生たちのおかげで研究活動はとても面白いものでした。

そんな自分が修了後に選んだ道は、通信業界。ここ10年ほどの通信の進歩は、人や企業同士のつながり方を大きく変え、社会を発展させてきました。今後も社会の抱える問題を解決し変えていくうえで、通信分野は大きな可能性があると思い、この業界を通じて社会の繋ぎ役になることを目指しています。化学の研究から大きく舵を切ったイメージですが、それは

全く違います。研究への向き合い方はそれぞれ。面白いからやっているのはもちろんですが、自分は研究を通して何かを身につけようという意識を持っていました。研究発表で磨いたプレゼン能力、様々な人と話すコミュニケーション力、笹川科学研究助成を申請するための書類作成力など、どれも社会で活かせることばかりだと思っ取り組んできたし、研究活動のモチベーションでもありました。

一方で、教育現場に関わるという熱意は冷めていません。学習塾で5年間働いた経験から、教師は自分に合った仕事だとも思っています。教師という仕事にこだわらず、今後はAIやIoTの技術を用いて、教育現場をはじめ、現代社会が抱える問題を解決していきたい。そんな気持ちになれたのも、研究活動で得た大きな成果です。



Tom's Circle

各キャンパスでいきいきと活動する
クラブ・サークルをピックアップ!

クラブ・サークル
紹介

富山大学合唱団



私たち富山大学合唱団は、夏はコンクール、冬は定期演奏会に向けて練習をしています。それ以外にも、団内コンサートや独唱会など、精力的に活動しています。団員のほとんどは大学から合唱を始めたので、初心者でも大歓迎です。また、途中入部も歓迎します!団員が手厚くサポートしてくれますよ。歌うのが好きな方、大学生活を楽しみたい方、何かに熱中したい方、気軽に合唱団の団室に遊びに来てください!

現在は、夏の大会が終わり、2月の定期演奏会に向けて練習しています。今年は、第55回の定期演奏会ということで、OB・OGとの合同演奏会になっています!大人数での迫力ある演奏を楽しんで頂けると幸いです。

第55回定期演奏会は、富山県教育文化会館で2月23日14時開演です。ぜひお越しください!!

富山大学建築サークルACT



建築サークルACT(Architect Circle of Toyama)では、夏休み期間に、TAMAGO展と題し、北信越地区の学生建築設計展を二日間開催しています!

学生が主体となり、毎年三名の著名な建築家の方をお呼びして、北信越地区の学生の能力向上や、北信越地区で建築を学ぶ学生たちの交流の場としての役割を担おう、というものです!

今年度も9/1(土)・9/2(日)の二日間に渡って開催し、内藤廣様(富山県美術館設計者)など建築業界の第一線で活躍されている建築家の方をお呼びいたしました。

また、建築旅行や合宿などを通して、学年の垣根を超えた交流を行っており、縦のつながりが盛んなため、普段の建築の授業の相談やアドバイスなどを、積極的に行える関係性が私たちの強みです!

映画を教材にして 英語や異文化を学ぶ

専門はアメリカ文学と異文化コミュニケーション。英語のスキルや異文化への関心を高めるため、時には映画も教材となる。アメリカ文学の授業では、ディカプリオの「グレート・ギャツビー」を鑑賞。その時代ごとの英語にふれる機会を作っている。

し、避雷針を作りました。そもそも神様の怒りではないという概念を塗り替えたのは画期的で、とても面白かったですね。また、フランクリンの反知性主義はトランプ大統領誕生のきっかけにもすごく通じているんですよ...という、何だか興味が湧いてきませんか」。



効果的な例えを引用しながら話す竹腰准教授。フランクリンをはじめとするジャントールや図書館会社のメンバーたちが、植民地や独立後のアメリカのまさに中心人物として活躍することになった経緯には、常に反知性主義が息づいているという。

「17世紀の現代にフランクリンが生きていたら、すごい活躍ができたのではないかとはいわれています。フランクリンの自伝は、人脈というネットワークづくりをはじめとして興味深い点がたくさんあり、とにかく面白いです」。

読んだ方は改めて、まだの方はぜひ一読されることをおすすめしたい。

人間発達科学部 人間環境システム学科
准教授

竹腰 佳誉子

たけごしかよこ

フランクリンと
知のコミュニティ



キャンパスの今

3キャンパスのイベントの様子や、
学生の日常生活、キャンパス風景、
キャンパススポットを紹介。

五 福



中央図書館

中央図書館入り口付近には「富大生いきつけスポット」の地図があり、誰でも付箋で富山のおすすめスポットを追加することができます。定番のものから「告白スポット」「コスプレスタジオ」など意外な情報があって面白いです。



経済学部講義棟近辺

五福キャンパスには金木犀の木が何本もあり、あるとき一斉に咲きます。風に乗って遠くまで香るので、歩いているときに甘い香りにはっとしてあたりを見回しても、金木犀の木が見つからないことが多いです。「謙虚、気高い人、初恋」などの花言葉に納得です。

杉 谷



和漢医薬学総合研究所

8月7日～8日まで和漢医薬学総合研究所で第23回夏期セミナーがあり、学生や一般の方に多数参加頂きました。受講者からは「初心者でも楽しく漢方医学について学べた。気血水診断などを体験できて楽しかった。」との声がありました。

高 岡



GEIBUNオープンエアミュージアム
in環水公園2018

環水公園で開催されたワークショップ「トレード缶/バッジ」。ほしいバッジを見つけて自分の描いたバッジと交換します。自分の描いたバッジが誰かに渡ったことに気がついた参加者が、喜んで掛けていく姿が印象的でした。

様々な経験は、後に必ず生かされる。



勤務先：富山地方検察庁
卒業年月：平成27年3月
経済学部経営法学科 卒業

よしだ な つ み
吉田 菜都美 さん

私は平成27年に経済学部経営法学科を卒業し、現在富山地方検察庁で勤務しています。
入庁後は約1年ごとに係が変わり、昨年度からは立会事務官として検察官とベアになり、検察官の補佐をしながら業務を遂行しています。その業務内容は多岐にわたり、検察官の取調べの立会や、事件捜査に伴う各種手続、公判に係る事務など様々なことを行っています。
大学時代を振り返ると、大学3、4年生のときに入っていた専門ゼミにおいて、イタイタイ病裁判の判例を勉強しつつ、公害被害に遭った方々の御遺族や関係機関の方からお話を聞くなどのフィールドワークを行いながら、イタイタイ病について様々な観点から研究し、他のゼミ生とともに論文を作成したことが印象に残っています。
また、勉強以外では、長期休暇を利用し

て海外に行き、一人で語学留学や国際ボランティアに何度か参加し、各国の人々との交流を通してその土地の文化を知り、多くの考え方を学べたことは、忘れられない経験になりました。
これらの経験は、現在の業務と直接通じるわけではないのですが、多角的に物事を見るという力が必要となる現在の仕事においては、少なからず役立っていると感じます。
目標を既に持っている学生の皆さんは、その目標達成に向けて勉強などをより一層励んでください。また、将来したいことを探している最中の皆さんも、現在少しでも興味があることについては躊躇せずに積極的に取り組んでみてください。
経験は宝です。それらの経験はいつどこでどのように役に立つか、今は分からないかもしれませんが、生かされる時がきっと来ます。

HELLO

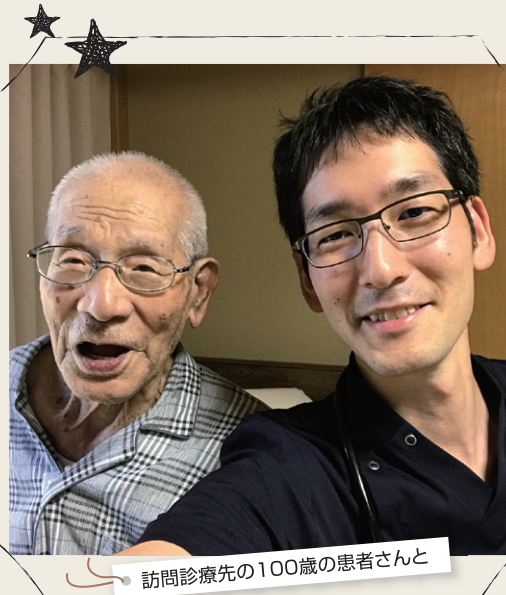
●各界で活躍する先輩からのメッセージ

ハロー先輩

長期休暇は大学生の特権！
チャンス逃さず、何事にもチャレンジ。

2012年に卒業して医師7年目になります。私は出身地の長野県佐久市にある佐久総合病院で2年間の初期研修を行い、3～5年目も佐久で家庭医療の研修を行いました。昨年、家庭医療専門医を取得し、現在は南砺家庭地域医療センターの所長をしています。仕事は内科外来と週一回の訪問診療、隣接している特別養護老人ホームの嘱託医、近くにある小中学校の学校医です。家庭医／総合診療医は、病気だけではなく患者さんの背景や家族、社会システムにまで意識して、老若男女問わず診療を行います。今後高齢化が進み、複数の疾患／課題を抱えている方をマネージメントする必要性が増していくことが予想されます。その担い手の一つが家庭医／総合診療医です。学費が非常に多く、診療所での仕事は大変ですが、

とても充実した日々を送っています。
大学時代、弓道部と救急医学勉強会SALUT、ピアエデュケーション部に所属していました。弓道部はとても楽しく日夜練習に励みました。夜でも弓道場に行く仲間が弓を引いていて、自分の家の様に心地よかった想い出があります。今でも弓は続けていて、たまに大学の弓道場にも出沒しています。
大学生活は勉強以外にも部活やバイト、趣味など忙しいと思いますが、どの経験も大学の授業に劣らず有意義です。経験している最中に意義があるかなんて考える必要はありません。決して無駄にはなりません。フットワークの軽さ、長期休暇は大学生の特権だと思います。チャンスを逃さず貪欲に経験して、そして沢山失敗して下さい。



訪問診療先の100歳の患者さんと

勤務先：南砺家庭・地域医療センター 所長
卒業年月：平成24年3月
医学部医学科 卒業

しみす ようすけ
清水 洋介 さん

メールアンケートのお願い

富山大学広報誌「Tom's Press」の今後のより良い誌面作りのため、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。本号のアンケートにご協力いただいた方の中から、抽選で3名様に『富山大学附属図書館オリジナルブックカバー&付箋セット』（非売品）を進呈いたします。そのほか、アンケート回答者全員に記念品をお送りいたします。

【回答項目】

1. 本誌を読んだきっかけ（「〇〇（施設名）に置いてあった」など）
2. 本号で興味を持たれた記事とその理由
3. 誌面内容、構成、表紙デザインなど全体的な感想または印象
4. 関心・興味のある分野、これから取り上げてほしいテーマ、その他ご意見・ご要望
5. 年齢・性別
6. （プレゼントをご希望の方）お名前、ご住所

【メール送付先】 catch@adm.u-toyama.ac.jp

【ハガキ送付先】 〒930-8555 富山市五福3190 富山大学 総務部 広報担当
回答項目1～6について、メール本文又はハガキに記載の上、上記宛先までお送りください。

<プレゼント応募締切> 2018年 12月20日(木) 必着

※ご記入いただいた個人情報は、プレゼントの発送以外には使用いたしません。また、当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。



富山大学
附属図書館オリジナル
ブックカバー&
付箋セット

抽選で3名様



富山大学公式SNS

新着情報やニュースを発信しています。

facebook



twitter



Google+



富山大学チャンネル YouTube

